

平成 26 年度第 1 回 八王子市市史編さん審議会 会議録

会 議 録

会議名	平成 26 年度第 1 回 八王子市市史編さん審議会	
日 時	平成 26 年 6 月 22 日（日）午前 10 時 00 分～午前 11 時 40 分	
場 所	生涯学習センター（クリエイトホール）第 7 学習室	
出席者氏名	委 員	松尾正人会長、相原悦夫副会長、池上裕子委員、上田幸夫委員、 小此木正貴委員、沼謙吉委員、前田成東委員、光石知恵子委員、 渡邊秀雄委員
	理事者	
	説明者	穂坂敏明市史編さん室長、齋藤和仁市史編さん室主幹、 長谷部晃一市史編さん室主査
	事務局	（説明者のほか）佐藤広市史編さん室専門管理官、 秋山和英市史編さん室主査、渡部恵一市史編さん室主任
欠席者氏名	落合隆委員	
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『新八王子市史』編さん事業の進捗状況について 2. 既刊行物についての意見交換 3. その他 	
公開・非公開 の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配布資料名	<p>資料 1 平成 26 年度市史編さん事業の組織体制（平成 26 年 6 月現在）</p> <p>資料 2 市史編さん事業における刊行物刊行実績及び計画</p> <p>資料 3 新刊紹介（八王子市史研究 4 号より）</p> <p>参考 『新八王子市史』資料編 2 中世 目次</p> <p>参考 市史編さん室提供講座等</p>	

1. 開会

【松尾会長】平成 26 年度第 1 回市史編さん審議会を開催する。出席は 9 人。審議会としては成立しているので開始する。傍聴者はあるか。

【齋藤主幹】なし。

【松尾会長】今後、傍聴希望があった場合はそこで対応する。会議録の署名は誰か。

【齋藤主幹】沼委員にお願いしたい。

【松尾会長】沼委員にお願いする。

2. 『新八王子市史』編さん事業の進捗状況について

【松尾会長】事務局からの説明後、意見交換をお願いします。

【齋藤主幹】前回からの大きな変更はないが、改めて 26 年度の編さん事業の組織体制を説明する。資料 1 より、職員と嘱託員、合わせて 17 名の体制となっている。変更事項は 1 件。資料中央に研究協力員 13 名とある。前回までは顧問 1 名、研究協力員 14 名という体制だったが、顧問の村上直先生が 2 月 10 日、研究協力員の後藤安孝先生が 4 月 8 日に逝去されたためだ。この場で報告する。組織体制についての報告は以上。

続いて、資料 2。刊行実績及び計画は、25・26 年度を中心に説明する。25 年度はまず、「資料編 2 中世」について。間もなく配本の予定。本日は参考として目次を配付した。「自然編」、「資料編 6 近現代 2」、「市史叢書 3 検地帳集成」、「市史叢書 2 聞き書き 織物の技と生業」、「市史研究第 4 号」については配本済である。

続いて、26 年度の進捗状況について。「原始・古代編」は、執筆者と事務局で原稿調整を行っている段階。「資料編 4 近世 2」は、今夏、出稿の予定。「データで見る八王子の近現代」は附帯刊行物としての位置づけとなり、「統計八王子」を中心にまとめているところだ。「民俗調査報告書 第 3 集 八王子市西南部地域 浅川の民俗」は、今秋の刊行を目指している。並行して刊行予定の「民俗調査報告書 第 4 集 八王子市北部地域 加住の民俗」も現在調査に入っており、年度末の刊行を目指して進めている。最後に「市史研究第 5 号」。各部会の委員に執筆をお願いしているが、27・28 年度については、本編等の執筆が本格化するため、今号をもって休刊となる。

議題 1 については以上。

【松尾会長】資料 1 より組織体制、資料 2 からは刊行物の説明があった。体制については、顧問が亡くなっている。刊行計画は、全体を通しての厳しいスケジュールの中、各部会と

もよく頑張っている印象だが、課題はないのか。

【齋藤主幹】50年に1度の市史編さん事業。基本的に初めて取り組む職員が多い。編集作業の大変さ、困難さを痛感している。

【松尾会長】では、次に進む。

3. 既刊行物についての意見交換

【松尾会長】刊行物についての意見交換に入る。

【齋藤主幹】前回の審議会以降に配本した刊行物について説明する。その後、意見をいただきたい。

まずは「資料編 6 近現代 2」について。「資料編 5 近現代 1」が、旧役場文書を中心としたのに対し、今回は家文書をはじめとする資料と、この編さん過程で初めて発見された資料を644点掲載している。規格は、発行部数が1,500部、判型ページ数はA5判・975ページ、販売価格は1冊3,000円だ。

続いて、初の本編となる「自然編」。八王子の自然を、地質・気象から動植物に至るまで、カラー写真や図版を豊富に用いて紹介している。内容が多岐にわたるため、執筆者数も52名と多い。規格は、発行部数が2,000部、判型ページ数はA4判・646ページ、販売価格は1冊5,000円だ。

次に、市史叢書を説明する。最初に「市史叢書 2 聞き書き 織物の技と生業」。織物を扱った刊行物は八王子市にはたくさんあるが、これは民俗学の立場から、市民への聞き書きを中心にまとめた。附録として初めてDVDを添付した。発行部数が1,500部、判型ページ数はA5判・297ページ、販売価格は1冊1,000円だ。

それからもう1冊、「市史叢書 3 検地帳集成」。「市史叢書 1 村明細帳集成」に続く叢書だ。いわば近世の土地台帳といった内容のものになる。発行部数が1,200部、判型ページ数はA5判・343ページ、販売価格は1冊1,000円だ。これら4冊は、7月1日から販売する。

続いて「市史研究第4号」について。発行部数が2,000部、規格はA5判・191ページ、販売価格は1冊500円だ。7月15日から販売する。

全ての本について、市内の小・中学校、高等学校や大学、公立図書館などに無償配布する。並行して、市政資料室、八王子駅南口総合事務所、郷土資料館、市史編さん室、くまざわ書店八王子店、石森書店、磯間書店、ブックランド島村書店での販売を開始する。参考資料として、市史研究4号に設けている新刊紹介のページを配付した。

説明は以上。

【松尾会長】全体を通して、気づいた点などあるか。参考資料に「資料編 2 中世」の目次

があるが、池上委員から紹介いただけないか。

【池上委員】資料所蔵者が全国に散らばっており、掲載の承諾にかなりの時間を要した。それから、目次を見るとわかるが、非常にたくさんの資料を、とにかく関係があるものを漏れなく入れようと欲張り過ぎたかもしれないが、その分ページ数も多くなり、事務局に大変な尽力を賜り感謝する。

【松尾会長】目次の最後が 1,072 ページとなっている。中世編で 1,000 ページを超えるのはなかなかない。写真や今まで掲載されていたようなものでも、改めて掲載許可が必要となれば、それは膨大な数量であって、事務局を含めて大変な苦勞だったと思う。

【相原副会長】掲載許可については、執筆作業に匹敵するほどの時間がかかる。とても大変な作業だ。外には出ないが、非常に苦勞されていると思う。入念に作業を進めることが大事だ。

【松尾会長】「資料編 6 近現代 2」について。前田委員、どうか。

【前田委員】現代の一番新しいところを担当しているが、資料の数が膨大であり、どのように取捨選択するかが問題。それから、利害関係者がいたり、この地域のこういう人がこういう文書を出したなど、個人情報特定されてしまうような場合もある。それらを踏まえて、うまく調整しながら編集するといったところで、それなりの苦勞がある。掲載許可についても、例えば、新聞記事を掲載しようとする場合でも、掲載料が発生することがある。そのあたりが今後の課題ではないか。何行か引用するなら、多分いいだろうという話もあるが、例えば、そのときの新聞の記事を切り取って写真に撮って、本文の中の資料的に入れるといった場合には、配慮をしなければいけないというようなところはある。

【松尾会長】許可はしっかり取りたいが、場合によっては掲載料が発生する。今後の課題だ。ほかに「自然編」などはどうか。

【沼委員】「自然編」について。よくできている。本当に驚いた。「市史叢書 2 聞き書き 織物の技と生業」についても、全く新しい分野を切り開いて、大変すばらしいと思う。

【前田委員】「資料編 5 近現代 1」は村文書が中心、「資料編 6 近現代 2」は家文書など私文書が中心というのは、編集する上での決定事項であった。思い返せば、近代と現代に分けるといった議論もあった。「近現代」は新しいので、先ほど述べたように資料が数多く存在する。「資料編 5 近現代 1」は刊行時期が早かったので、折衷的な考えとして、まずは村文

書を中心に編集し、調査や掲載許可に時間のかかる家文書を「資料編 6 近現代 2」にした。しかしながら、「資料編 6 近現代 2」は、家文書を中心とした私文書に完全に限定していない。事務局からも補足をお願いしたい。

【齋藤主幹】「資料編 5 近現代 1」は、一番初めの刊行物であるがゆえに、期間的な制約があった。限られた期間の中では、調査や掲載許可に時間のかかる家文書までを掲載することは難しいため、まずは公文書を村役場から集めて、それを中心に進めた。当時の計画では、次の「資料編 6 近現代 2」は家文書を中心としたところだが、「資料編 6 近現代 2」は、家文書を中心とした私文書に完全に限定してはいない。それは、今後、通史編を編集するにあたり掲載すべき資料であったり、「資料編 5 近現代 1」に掲載しきれなかった資料であったという側面もある。それからもう一つ、私文書については、時代が新しくなればなるほど、個人情報や権利関係の問題があった。これら幾つかの要因が重なった結果だと事務局は考えている。

【松尾会長】刊行計画に沿って進めていくことは、なかなか難しいことだ。市史叢書などの附帯刊行物は、刊行計画にはないものだ。通史編や資料編のように計画されたものとは違い、柔軟に対応しなければならない。「市史叢書 2 聞き書き 織物の技と生業」や「市史叢書 3 検地帳集成」は、通史編や資料編では掲載が難しかったり、ページ数の問題などから漏れてしまったであろうものを、コンパクトな形でうまくまとめている。ソフトカバーで比較的読みやすく、簡単な解説や写真もあり、手軽に多くの人に見てもらえる。これは各部会の努力の賜物で、本当にすばらしい試みだ。

【光石委員】検地帳については、八王子市域が非常に広いため、他の市と比べても、大変な量がある。これから予定されている宗門人別帳も、同じ形態をとると思う。

【松尾会長】検地帳の数が多いのは、田の数が多いことに起因していそうだが。

【光石委員】そのとおりだ。しかしながら、古い検地帳はそんなにそろっていない。編集にあたり、それをどう生かすかといった議論の中で、経済の専門家が、横書きで、数字で示したいとあった。後々の研究で使い勝手が良いのではないかという理由だ。この発想には非常に驚いた。検地帳は原文書のとおり編集するととても膨大になる。では、どれをピックアップするかというのも、なかなか難しい。むしろ全体を出してしまうほうがわかりやすい。宗門人別帳も同じ形態をとると思うが、このやり方は、統計をとるには非常に楽だ。それなりの苦労があったが、一つの試みとして、どのような評価があるか、楽しみだ。

【松尾会長】市史叢書などは、編集作業中に発生した膨大な資料に対して、柔軟にまとめて手軽な形で刊行する。事務局も大変だったと思うが、執筆者側も、柔軟な形で刊行できるのは非常に効果的で、責任を果たしたと感じるのではないか。

【光石委員】他市町村のことはわからないが、これは一つの試みと考えている。部分的カットで満足できるのか、全部をとるか。

【松尾会長】今の点を含めて、どうか。

【池上委員】見つかっている検地帳について、マイクロを全部撮っているのか。

【光石委員】ほとんどマイクロ化してあるが、マイクロだけではなくて、紙焼きもある。紙焼きは大変だが、非常に便利だ。古文書が読めなくても、検地帳なら大部分が読める。後々、非常に役に立つと思う。

【齋藤主幹】目録を作る作業が遅れていたが、今はマイクロ、紙焼き、目録という形で大分整理された。

【池上委員】検地帳について、一覧表にすれば、スペースも少なく、パッと見てわかりやすい。しかし、検地帳には、この村に残っているもの、最初につくられたもの、それを後で写したものというのがある。それぞれ違いがあると思う。せめて表紙や末尾の記載がわかるようにしてあるとありがたい。

【光石委員】できれば、写真などでも載せられると良かった。

【松尾会長】私見で恐縮だが、小平市の編さん事業が最近終わったようなので、小平市の図書館に行ってみた。2階が資料室になっていて、壁全体に自治体史が並んでいる。書庫に全部入れてしまっている市もある中で、小平市はとても充実している感じがした。一堂に見えると、その市史の力量、編さん委員会を含めての実績がよくわかる内容だった。八王子市も参考にしてもらいたい。

【小此木委員】「資料編 5 近現代 1」「資料編 6 近現代 2」とそろったところで、質問したい。一つは、歴史は光と影の部分があり、それが表裏一体になって真実をあらわす。この資料編を見ると、八王子の風俗史にかかわる部分がほとんどないと感じる。これは通史編でどう記述されるのか。八王子市には、明治から戦後にかけて大きな遊郭があった。当時の資料によると、妓楼で 20 軒、それから妓娼で 200 人の、かなり大規模な遊郭があった。八王

子の繁栄をあらわしているような事象だ。実際現地に踏み込むと、入り口は非常に狭いが、中に大通りが存在する。いわゆる大門通りになっていて、その両脇に妓楼が並んでいたわけだ。現在も3・4軒、当時をしのばせる建物が存在している。文化財としても価値があると思う。保存できればいいが、少なくとも調査だけでもしてもらいたい。そのぐらいの歴史的な価値がある建物だと思う。この市史編さんの中で取り上げてもらいたい。審議会としても、何かすべきではないかと思う。

もう一つは、浅川の地下壕だ。新聞などでも取り上げられている。非常に大きな地下壕だ。しっかり調査をして、資料もきちっと整備したうえで、通史編に臨んでももらいたい。

それから、小さいことだが、高尾近くに湯ノ花トンネルがある。そこで、日本でも類を見ない列車に対する攻撃があり、死者もあった。通史編では、そういった悲惨な出来事に対する記述についても関心を持っている。

【前田委員】遊郭や浅川地下壕については、通史編で扱うことになると思う。「資料編6 近現代2」を編集する際に、遊郭に関連する資料は出てきたそう。今回は諸事情により掲載を断念したが、当然、通史編を執筆するときには、何らかの形で取り上げるのではないかと考えている。それから、浅川地下壕についても、省略されるということはずがないと思う。

【佐藤専門管理官】遊郭関係は、もう何十年も前から先生方が調査しているが、現実には非常に難しい問題もある。文化財保護のベースには、所有者の承諾というのがあるが、困難を感じる。行政が出ることによってうまくいかない場合もあり、反面、市民が自立的に調査してうまくいく場合もあるので、そういうバランス感覚が大切だと感じている。

【松尾会長】地下壕は、第一人者が入っているので、間違いないと思う。遊郭は、諸問題はあるが、しかし全くそれを抜きにしてやるわけにはいかない。何らかの形で市史に取り込まれるのではないか。

【上田委員】「市史研究第4号」の中に、「祭囃子からみるマチとムラ」という調査報告がある。八王子は非常に祭囃子が多くて盛んだ。なぜ盛んになったかを、町と村に分けて調査している。一覧表になっていて見やすい。今年の8月1日、2日、3日の八王子まつりは、目線が今までと違うなという感じを持っている。非常に興味深かった。

【松尾会長】各執筆者もこの市史研究のために、改めて調査して検討している。

【上田委員】調査は大変だったと思う。

【松尾会長】市史研究も、回を重ねていくと大変な財産になる。事務局から何か補足があるか。刊行部数を教えてほしい。

【長谷部主査】2,000部だ。

【松尾会長】これも大変な部数だ。何もなければ、次に進む。

3. その他

【松尾会長】その他のところで、市史編さん室提供講座等についてとある。それを含めて事務局から説明を。

【長谷部主査】市民向けの講座を開設している。一つは、八王子学園都市大学の「いちょう塾」。研究協力員の犬飼康祐先生に「セイノカミの行事のいろいろ」をテーマに講義いただく。犬飼先生には、市史研究にも同内容で執筆いただいている。もう一つは、市民自由講座として、近現代部会・副会長の新井勝紘先生に「絹の都・八王子」をテーマに講義いただく。市史編さん室では、事業の普及促進のための講座を提供している。

【松尾会長】犬飼先生と新井先生の二人が、市史編さんで蓄積した研究成果の報告をする。市史編さん室の提供講座というのは、コンスタントな形でこれからも続いていくということか。

【長谷部主査】そうだ。

【松尾会長】成果が蓄積していけばいくほど内容も充実し、活用できそうだ。そのほか、フリーな形での意見交換をしたいが、どうか。何かこの機会にということはないか。

【沼委員】刊行物の正誤表について教えてほしい。

【齋藤主幹】必要に応じて正誤表を入れている。遅れて気づいた場合は、当初の正誤表には入っていないが、随時対応している。部会の先生方に点検をしてもらい、指摘があった場合には入れている。

【松尾会長】ほかはどうか。市民目線から、何か気づいた点などないか。

【渡邊委員】「自然編」とそれ以外で本の開き方が違うことに違和感を覚える。縦書きと横書きの違いも気になる。大きな写真を掲載した方が、きれいだとかあるかもしれないが、

素直な感想として、やっぱり違和感がある。

【松尾会長】英文の原稿があつたりすると、逆になって困ったりする。なかなか難しい問題だ。全体を通して何かあるか。

【齋藤主幹】案件は以上だ。第 2 期は今日が最後だ。会長・副会長から挨拶をいただきたい。

【松尾会長】尽力いただいた方々にお礼を申し上げる。市史編さんそのものは、今後も続いていくことになる。市史編さんはたくさんの方から意見をもらうことが大事。事務局でいろいろ工夫して欲しい。これからも、様々な形でかかわっていくことになるかと思うが、よろしくお願ひしたい。また、市民の方々にも委員に加わってもらい、市としても、大変貴重で重要なことを協力いただけたのではないかと思う。

【相原副会長】これからが一番、事務局としてはハードな時期になるのではないかと思う。ほとんど外へ出ない苦勞の積み重ねの中から、こういったものが成果物として世に出る。そして、残されていく。我々も微力ながら携わらせていただくが、事務局もくれぐれも健康に留意して、ぜひ目標を達成してもらいたい。

【松尾会長】室長からもお願ひする。

【穂坂室長】3年間にわたる審議会の中で、さまざまな意見をいただき感謝する。審議会での意見等は、市史編さん事業を進める上で一つのよりどころとなっており、その結果として、本日、市史の刊行の報告ができたと思う。市史編さん事業は、市制施行 100 周年記念事業という位置づけもあり、また、来年からは本市も中核市に移行するというのもあって、内外からも大変注目を集めているのではないかと認識している。その中で、目標としている 28 年度までの全巻刊行については、事務局一同、全力を傾けて、この目標を達成したいと思っている。任期満了する委員もいるが、市史編さん事業はまだ道半ばだ。今後とも引き続き、市史編さん事業を見守っていただき、意見や指導等をいただければ幸いだ。

最後に、3年間の労苦に感謝申し上げるとともに、本審議会の進行、取りまとめをいただいた松尾会長並びに相原副会長に心から感謝を申し上げて、挨拶としたい。

4. 閉会

【松尾会長】それでは、閉会する。

平成 26 年 6 月 22 日

会議録署名人 沼 謙 吉